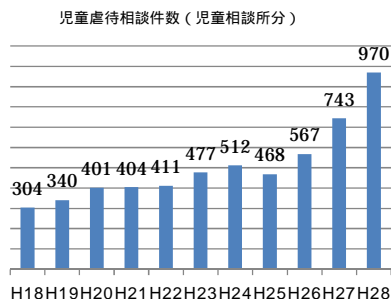
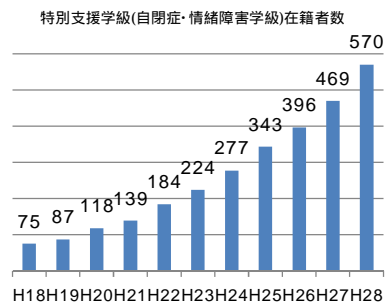


# 子どもの心のケアに係る総合拠点の整備について

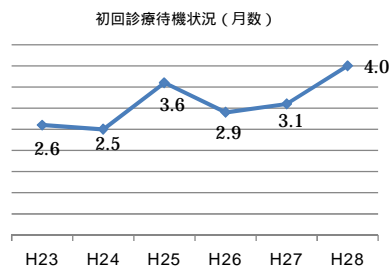
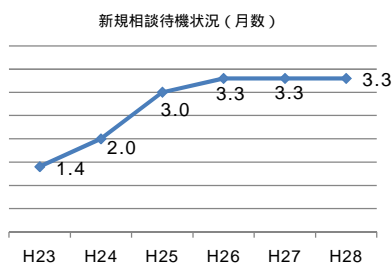
## 【背景】

発達障害や虐待などにより、心のケアが必要な子どもが増えています。



医療機関の相談待ちや診療待ちが、長期化しています。

【こころの発達総合支援センターの状況】



## 【総合拠点整備の趣旨】

子どもの心のケアは、早期発見・早期支援が重要であり、専門医療機関の相談・診療待ちの改善が求められています。

また、医療・福祉・教育などが連携した総合的な支援が必要です。

そこで、安心して子どもを産み育てられる環境づくりのため、全国に先んじた高度で専門的な医療を提供するとともに、相談や心理ケア、学校教育などの総合的な支援を行う、子どもの心のケアに係る総合拠点を整備します。

## 【総合拠点に整備する施設】

こころの発達総合支援センター〔福祉プラザから移転・拡充〕

- ・子どもの心の問題や発達障害について、日常生活等に関する様々な相談や専門医による診療などを行います。
- ・診察室を2室から4室に、相談室を3室から10室に増設するとともに、脳波検査・聴覚検査等の各種検査室や集団療育スペース、デイケア室を新設します。

中央児童相談所〔福祉プラザから移転・拡充〕

- ・子どもの福祉に関する専門的な相談への対応や市町村への支援などを行うとともに、必要な場合は、子どもを一時保護します。
- ・相談室を3室から5室に増設するとともに、一時保護所の定員を12名から16名に拡充し、居室の個室化を図ります。

児童心理治療施設〔新設〕

- ・虐待を受けて心に傷を負ったり、ひきこもり、不登校などの心理的な要因で家庭や学校に適應できない子どもを対象に、短期間、心理治療や生活指導など、社会生活に適應するために必要な支援を行います。
- ・本県では初の児童心理治療施設です。  
(入所定員：30名 通所定員：15名)
- ・家庭的な雰囲気の中で、効果的に治療・支援ができるよう、居住エリアは小規模なユニットとして整備します。

特別支援学校〔新設〕

- ・児童心理治療施設に入所・通所する子どもを通学させて、学校教育と併せて、障害による学習上や生活上の困難を改善・克服するための指導を行います。
- ・児童心理治療施設と特別支援学校本校の併設は、全国でも初めてです。

## 【総合拠点の目指す姿】

一体的に整備するメリットを生かし、各施設の機能を連携させて、迅速で一貫した手厚い支援を行います。

総合拠点を中心に、医療・福祉・教育・行政等各分野の関係機関との全県的な支援ネットワークを構築します。

# 子どもの心のケアに係る総合拠点（仮称） 基本設計の概要

## 1. 施設の概要

- 建設場所 甲府市住吉2丁目地内県有地
- 敷地面積 14,690㎡
- 計画建物 鉄筋コンクリート造一部木造 地上2階建  
延べ面積 約6,600㎡
- 施設構成 こころの発達総合支援センター  
中央児童相談所  
児童心理治療施設  
特別支援学校

配置図、外観イメージなどの設計内容は、今後実施設計により変更する場合があります。



外観イメージ（南西方向から）

## 2. 設計コンセプト

- 「安心」できる場所づくり
  - ・建物を低層化するとともに、プライバシーが保たれ、子どもたちが安心して過ごせる場所
- 「育む」場所づくり
  - ・山梨の光や風、美しい緑を感じながら、子どもたちを育むことができる場所
- 「繋ぐ」場所づくり
  - ・各施設のスタッフが連携し、最大限の力を発揮して子どもたちを支援できる場所

## 3. 外観コンセプト

- ◆ 周囲の低層住宅地との調和を図り、建物を低層2階建てとします。
- ◆ 建物を分節化することで、建物のスケール感を小さくし、子どもたちのスケールに合った建物とします。
- ◆ 児童心理治療施設（入所部門）や特別支援学校特別教室等は、木造建築とし、木の持つ暖かさや柔らかさを感じられる内外装を行います。



外観イメージ（メインアプローチ方向から）



## 配置図



## < 案内図 >



- 子どもたちの様々な問題に対応する児童相談所をアプローチ側に、住まいとなる児童心理治療施設を敷地の奥に配置します。
- 利用者のプライバシーに配慮し、各施設を平面的に分離し、それぞれ専用の出入口を設けます。
- 通風・採光を確保するとともに、子どもたちの遊びや学びの場としても有効に活用できるよう、中庭を配置します。

## < 一体整備による効果 >

- ✓ 各施設のスタッフが緊密に連携しながら、相談から治療まで、ニーズに応じた、迅速で一貫した手厚い支援を提供します。
- ✓ 施設の運営・管理の一元化、会議室や厨房などの集約化により、建築・運営経費を削減します。
- ✓ 休日や放課後などには、特別教室や体育館を一時保護所と共用し、施設を有効活用します。

## < 環境負荷低減対策 >

- ✓ 最新型のカスコージェネレーションシステム( )を導入し、省エネルギー化を図ります。  
天然ガスで発電し、同時に発生する熱エネルギーを給湯等に活用するシステム
- ✓ 井戸水をトイレ洗浄などの雑用水に利用し、水資源の保全を図ります。